



## ラグジュアリー・モバイルの世界

携帯電話をラグジュアリーアイテムとして位置づけるという、  
革新的なコンセプトを打ち出した VERTU。  
世界でも特別な位置にいる VERTU のプロダクトの魅力と哲学に迫る。

Photo Mitsuaki Murata Text Yumi Hasegawa

時計に至高のマスターピースがあるように、携帯電話にも最高の技術と情熱が注がれた逸品がある。世界50カ国に約500以上の店舗を展開するVERTUのラグジュアリー・モバイルだ。その特徴はクラフツマンシップへの徹底的なこだわりだ。手作業で削りだしたスイス製のネジを使用し、スクリーンにサファイアクリスタルを採用するなど、すべてのパーツが入念に吟味されている。そして、さらに専門職人の手により加工・組立て製造される。これほどのラグジュアリーアイテムが、ハンドメイドの本場、イギリスで、デザイン、開発、製造されているのは象徴的な事実だろう。1998年、世界最高の携帯電話を作り上げるというプリンシパル・デザイナーのフランク・ヌオーボのビジョンのもとに設立されたVERTU。初めてのモバイルを世に送り出すまでに、なんと4年の歳

月を費やしている。2002年1月に披露された初のハンドセットは、ラテン語で「美しい芸術作品への傾倒」を意味するVERTUの名に恥じない逸品として、世界中の賛辞をあげた。それからの同社の歩みは、2005年に卓越した経営手腕を持つアルベルト・トレスが社長に就任したことで、さらに加速している。真のエレガンスを好む人々からこのモバイルが支持されているのは、ハンドセットの素晴らしさにあるだけではない。世界中どこでもコンシェルジュからさまざまなサポートを受けられるなど、最高級のサービスが充実しているからでもある。VERTUのモバイルフォンを手にするということはすなわち、特別なステイタスを享受できることだといえるだろう。

## 究極の機能美を実現させた テクノロジーデザインの最高傑作

VERTU プリンシパル・デザイナー／フランク・ヌオーボ

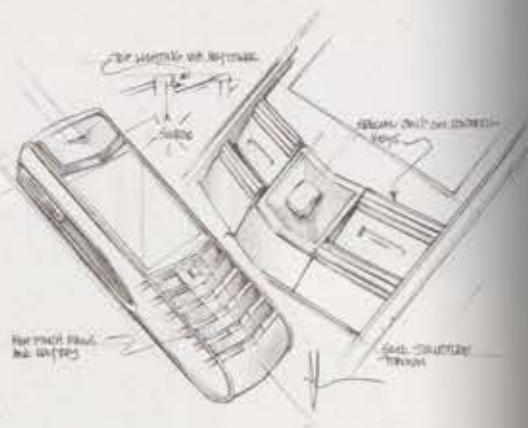


Frank Nuovo / フランク・ヌオーボ。VERTU プリンシパル・デザイナー。米国カリフォルニア州バサティナのアート・センター・カレッジ・オブ・デザインにて学位を取得。BMW デザインワークスにて家具、家電、医療用機器、一般消費財、自動車など幅広く企業の製品デザインを手掛ける。1995年にノキア社入社。1996年から10年間、チーフデザイナーとして勤務するかたわら、1998年にVERTUのイニシアルアイデアを提案。



ノキア社にデザイナーとして入社した1995年以来、ラグジュアリー・モバイルについてのアイデアをすでに温めていました。

贅沢だけではなく、最高級の素材、テクノロジー、職人技術、サービスを一体化させたモバイルを作りたいと考えていたのです。そのデザインコンセプトの源となったのが、ジュエリーウォッチや万年筆です。ラグジュアリーな時計やペンの品質と価値をモバイルに与えるという発想から、VERTUは誕生しました。単なる電話機としてだけではなく、VERTUをひとつの



ブランドとして確立させたいと考えたのです。

毎日持ち歩く機能性の高い端末ツールが、より個人的で宝飾品のような輝きと優雅さを持つものとして作れないか、という発想は、ノキアにおいてテクノロジーの進化を目的の当たり前にしてきた人間にとっては自然な流れでしたね。

最大の難関は、機能性とデザイン性の両立でした。美しい一方で、小さく使い勝手が良く、しかも丈夫であることが必要となるわけですから、これには大きなチャレンジでした。そのため

に、特別なテクノロジーや技法もデザインそのものに取り入れる必要がありました。

素材についても、贅の象徴としてだけではなく、例えば傷の付きにくいサファイアクリスタルをスクリーンに使用するなど、機能性の面も重視して採用しています。

ちなみに、VERTUのロゴの「V」は、両手を大きく広げて誰かを歓迎するという、イタリア式の表現から来ているんですよ。イタリア系出身なので、ポジティブなメッセージをブランドイメージに取り入れたかったんです。



1998年に設立され、2002年に最初のモデルを発表したVERTUは、モバイルフォンが単なる実用的な端末ツールとしてだけでなく、ラグジュアリープロダクトとしての可能性をも持っていることを世界に向けて発信した、パイオニアであると自負しています。機能美と高貴さと最新テクノロジーとの共存こそがVERTUの命題です。例えば、贅沢な素材と技術面との両立も大きなテーマとなっており、毎日持ち歩く電子ツールとして、決して重すぎず、機能的であることも重要な課題です。その理想型に近づくため

の挑戦は、今日でも続けられています。そんなVERTUの顧客は成功を収めると同時に、人生そのものを楽しむことも知っている富裕層です。これまでに発表されているモデルもそれぞれに、購買層が異なるのが特徴ですね。3つのモデルのパーソナリティが明確なのも、VERTUの個性と言えるでしょう。

記念すべき第一弾モデルとなるSignatureは、高度な機能性を誇る「グランド・コンプリケーション・ウォッチ」の伝統を取り込むことが最初のコンセプトでした。ゴールド

やプラチナ、ダイヤモンドなどの特別な素材を使うジュエリーを基礎にしたアイデアのもと、複雑で完璧な作りや動きを実現しています。続くAscendはスポーティさをテーマに、Ascendは同じテーマを踏襲しながら、より素材にこだわった点が特徴です。また、Constellationではクラシックな機能美を追求しており、特にジェットセッターに向けた商品として展開しています。それぞれモデルの個性をあらゆる場面で使い分けることができるのも、VERTUの特長なのです。

## モバイルフォンの可能性を進化させた パイオニアの揺るぎなきこだわり

VERTU 社長／アルベルト・トレス



Alberto Torres / アルベルト・トレス。VERTU 社長。1994年米国スタンフォード大学にてコンピュータサイエンスの博士号を取得。マッキンゼー・アンド・カンパニー社の共同経営者としてサンフランシスコシリコンバレーやテキサス州、パリにハイテク、企業戦略、財務部門のリーダーとして約10年間勤務し、ノキア・コーポレーションに入社。コーポレート・ストラテジーの副社長として活躍。2005年7月にVERTU社社長に就任した。スペイン系ベネズエラ人で、スペイン語、仏語、英語に堪能。美食家としても知られる。





ロンドンから南西へ車で約1時間。緑豊かなハンブシャー州の郊外に佇むVERTUは、ブランドイメージを体現するモダンな空間だ。工場と呼ぶにはあまりにもデザインコンシヤスなワークショップ内の製造部門では、特別なスキルを習得した86人の職人が、各部品の組み立てから最終工程のハンド・ポリッシュまで、手作業でひとつずつ製作している。その揺るぎない技術と最高品質へのこだわりが、ピスポークと呼ばれる相応しい携帯電話ハンドセットの実現を可能にしていた。

この伝統と革新とを電子ツールに取り込んだ発想の鮮烈さや柔軟性こそが、VERTUを従来の携帯電話の概念を超越した、希有な存在たらしめる要素となっている。

量販型モデルの携帯電話の部品数は約30〜40個であるのに対し、VERTUのハンドセットには約550個の部品が使われており、素材や部品、技術面で74もの特許を取得した。ひとりの職人がVERTUのクオリティの粋を凝縮したSignatureを組み立てられるようになるには、1年間の訓練を要する。中でもハンド・ポリッシュの工程は、すべてのハンドセットに

類い希なき輝きを与える、時計職人の技を独自の方法で採用し、さらに弟子達へと受け継がれてきた、VERTUだけの特別な技術である。

手作業で行われる製造工程や、本体表面に散りばめられた宝石だけではなく、骨子となるキーパッド内部や細部のネジのひとつに至るまで、最高の素材のみを使用している点も、VERTUのこだわりである。

例えば、本体部分がプラチナ製のSignatureのキーパッドは、スムーズな操作感を実現するために、ベアリング（軸受）部分にダイヤモンドの次に強度の高い物質であるルビーが使用されている。

スクリーンには、世界で初めて、自動車のキーでこすっても傷付かない強度を誇る、クリスタルサファイアを採用。ヘッドピローには、耳に当てた時に冷たさを感じないよう、高い断熱性を持ったセラミック材が使われている。また、1つのハンドセットに使われているプラチナは、20個の結婚指輪が作れるほどの量だ。

また、プラチナとゴールドのSignatureはエレクトロニクスとして初めてスイスのアッセイ・オフィスよりホールマークを受けた。

この目に見えない細部に至るすべてのディテイルや品質への徹底的なこだわりが、世界に誇るラグジュアリー・モバイル、VERTUを単なる電子ツールの存在を超えた唯一無二のものにしている。



スイス・ハンドメイドの高級時計が生活ツールの枠を超えて、宝飾品として成功を手にした人々の腕を飾るように、携帯電話にも最高峰の技術と洗練とを実現させたVERTU。今年、創業150周年を迎えるフランスのハイジュエリーブランド、プシュロンとのコラボレーションも、携帯電話の新しい未来を切り拓いたVERTUだけが成し得た最高の贅沢であるといえるだろう。

最も人気の高いSignatureとプシュロンとの贅を極めたコラボレーションが、「コブラ」だ。2カラットのペアシェイブダイヤモンドと1カラットのラウンドダイヤモンドをアクセントに、ルビーをふんだんに散りばめたコブラが、ピンクゴールドの本体部分を包み込むデザインの美しさに息を呑む。

コブラの目にはエメラルドが使われ、妖艶な光を放つ。限定8個で生産され、18万9千ポンド(約4千万円)という高価モデルながら、発売と同時に6個を完売させている。

第2弾として発売された、「バイソン」は、ピンクゴールドの本体に、マルチカラーサファイアや、ルビー、ピンクダイヤモンドなどの宝石が散りばめられた逸品だ。

26個限定で、値段は7万ポンド(約1千4百万円)。宝石はひとつひとつ手作業で付けられ、ひとつのハンドセットの装飾だけで、3週間近く要するという。

プシュロンとのコラボレーションが女性向けの華やかなものであるならば、男性のコレクター心を満たしてや

まないのが、Ascendの、レーストラック・レジェンズ、シリーズだ。モンツァ、シルバーストーン、ル・マン、インディアナポリス、モナコ、ニュルブルグリングの6つの伝説的なレーストラックがひとつずつ、チタン製本体裏面のバッテリーカバーに刻まれ、それぞれレッド、ブリティッシュ・レイシング・グリーン、ブルー、ブラック、イエロー、グレーのレザーで装飾が施されている。各1000台限定だが、中にはプレミアが付いているものもあるとか。

6つすべてが揃ったカーボンファイバーとチタン製のラグジュアリーケースに入ったシリアルナンバー入りのセット(限定51台、3万6000ポンド/約740万円)も人気が高く、ケースの3つのドロワーには、トレス社長のサイン入り保証書やバッテリーなども含まれている。

その他、フェラーリを含むラグジュアリーブランドとのコラボレーションも実現している。さらに、VERTUが誇るエクスクルージブなサービス、「コンシェルジュ」を提供。

ハンドセットに取り付けられた専用のボタンを押せば、世界中どこでも、24時間体制でホテルや航空券の手配からレストランの予約までサポートしてくれる。

今後も、ラグジュアリー・モバイルブランドとして、電子ツールの枠を超えた英国クラフツマンシップが誇るハンドセットを、さらに展開していく予定のVERTU。その麗しき進化から目が離せない。

